東海労 関西
２０２５年
６月２３日
第９７１号
ＪＲ東海労新幹線関西地方本部
発行責任者 笹田　伸治
編集責任者 教　宣　部

労働組合は組合員の権利を守るために存在する！

JR東海には多くの関係会社があります。その中でも2023年10月に東海キヨスクとJR東海パッセンジャーズが合併し、(株)JR東海リテイリング・プラスが発足し、多くの労働者(正社員、契約社員)が働いています。

なんで住所を知ってるの！？　誰に教えてもらったの！？

聞くところによると、当該の会社内にはJR連合に加盟するリテイリングプラス労働組合があり、正社員だけが加入する組合でした。ところが今年4月、リテイリングプラス労働組合から突然、契約社員に手紙が送られ、半強制的に組合への加入となったそうです。ちょっと、待って下さい！所属していない組合が何故、個人情報である住所が分かるのでしょうか？不思議ですね！？正直、気持ち悪いです。

JR連合系の組合が責任を放置・放棄！？

同じ会社で仕事をしていた仲間が労働組合に所属せず、当該の労働者の権利はどうなっていたのでしょうか。会社内にあったJR連合系の労働組合は放置していたのでしょうか。これがもし本当なら常識を疑いますね。

これまで放置していた責任の陳謝もなく、詳しい説明や意見も聞かず組合への加入を急いだ行為は、労働者を守ると見せかけた「囲い込み」にしか思えてなりません。

JS労に加入してもらいたくない会社と
リテイリング・プラス労組の苦肉の策？

私たちの仲間は、2023年8月にJS労を結成しました。関西サービックで働く組合員の権利を守りその運動と組織は拡大しています。職場の問題に関して団交を継続していますし、一番困っているのは、サービック会社とJR連合のサービック労組です。もしかしたら、これもJS労が結成された一つの対策として、慌てて契約社員の組合員化を図ったのではないのでしょうか。

労働組合の任務は労働者の権利を守ることです。私たちは、労働者の権利を守り、あらゆる関連、協力会社で働く全ての労働者と連帯して労働条件の向上を目指します。職場で虐げられ悩みを抱える労働者の立場に立って連帯します。